

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、暫時休憩いたします。再開を２時半といたします。

〈午後２時２０分 休憩〉

〈午後２時３０分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、加藤康太郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。〔９番 加藤康太郎君登壇〕

○９番（加藤康太郎君）

みらい創造クラブの加藤康太郎です。

発言通告書に基づき、一般質問をさせていただきます。

１、県立高校の将来構想における「高校魅力化」に向けた取組について。

新潟県教育委員会では、生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす教育環境の整備や、将来の新潟を担う人づくりが求められていることから、平成２８年３月に、令和９年（２０２７年）度までの学校・学科の在り方についての中長期的なビジョンである「県立高校の将来構想」を策定しました。その内容は、生徒数の減少や高校に求められるニーズが大きく変わりつつある中で、魅力的な高校であり続けるための「あるべき姿」を示したものとなっています。また、新しい高等学校学習指導要領では、複雑で予測困難な時代の中でも、生徒一人一人が社会の変化に主体的に向き合っており、多様な他者と協働しながら問題を発見し、解決していくために必要な力を育てていくことを重視しており、そのための教育環境を整えることがより一層重要となっています。

当市（市内３高校）においても、令和元年度から、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」のアソシエイト校の認定を受け、探究的な学びによる特色ある高校魅力化に向けた取組（支援）を、連携して推進していますが、約３割の生徒が市外へ進学している状況です。

生徒が行きたい、保護者が通わせたい、そして、「地域みらい留学」（県外からの入学募集）なども見据えた魅力ある高校にしていくために、その地域・学校でしか学べない「独自カリキュラム」、学力・進学保証をする「公営塾」の設置、生活寮ではない「教育寮」を通じた全人教育を推し進める産官学民（地元産業界・自治体・学校・市民）が連携した地域ぐるみのコンソーシアム（共同事業体）による『高校魅力化プロジェクト』が必須と考えます。

(1) 高大接続改革における探究的な学びによる特色ある「高校魅力化」に向けた、当市の取組状況（成果）と課題について伺います。

(2) 「高校魅力化プロジェクト」の３本柱の一つとなる「公営塾」を設置する考えはないか伺

います。

(3) 「高校魅力化プロジェクト」の3本柱の一つとなる「教育寮」を設置する考えはないか伺います。

(4) 「高校魅力化」(教育の魅力化)は、教育政策でありつつも、実は、「移住・定住促進の政策」(人口減少対策)でもあります。「高校魅力化」に向けた取組が、いかに人口減少対策、移住・定住促進につながるのか、当市の見解を伺います。

(5) 白馬村(村の予算規模は約50億円)では、毎年、約2億円を支出し、公営塾の経営、学生寮の運営、入学の全国募集の3つの事業を、白馬村が主体となって運営しています。当市においても、進捗に応じて、予算をさらに充当していく考えはないか伺います。

(6) 市内3高校への地元からの進学率を高めていくためには、0歳から18歳までの子ども一貫教育基本方針による高校と小・中学校との生徒同士による交流事業や授業の連携が有効と考えますが、今後、どのような対策を講じていくのか伺います。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(松尾徹郎君)

    蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長(蘆本修一君)

    加藤議員のご質問にお答えいたします。

    1点目につきましては、生徒自らが進みたい目標を見つけ、実現につなげるため総合的な探究の時間への事業支援や探究プロジェクトに取り組んできており、少しずつ生徒の変容が見られるようになってきております。今後、さらに取組を進めるためには、コーディネーターの増員が必要であると捉えております。

    2点目につきましては、現在、糸魚川高校で自習室を設置しており、今後は、他の高校も含めて公営塾への発展というふうな道も検討してまいります。

    3点目につきましては、現在、海洋高校のみが県外からの生徒募集が可能であり、寮が設置されております。今後は、コーディネーターとの関わりを深めながら、教育寮への発展も検討してまいります。

    4点目につきましては、高校での探究的な学びによる地域との関わりが、糸魚川への愛着も深まり、移住・定住や糸魚川に関係する人材を育てることに確かにつながるものと考えております。

    5点目につきましては、現在の取組を加速させ、状況に応じて財源確保を含め、検討してまいります。

    6点目につきましては、特色や魅力のある高校づくりをさらに進め、市内の小・中学生が行きたいと思う高校にするために学校間の連携を進めてまいります。

    以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、どうぞよろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(松尾徹郎君)

    加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

ありがとうございます。

平成25年度から勤儉力行の校是の下、私も糸魚川高校保護者会の役員・顧問として6年間、平成27年度には県高等学校のPTA連合会の理事を務め、微力ながら市内3高校PTAと情報共有しながら高校教育の振興に携わり、令和2年から3年間は糸魚川高校の学校評議員として、また令和2年6月に高校魅力化プロジェクトを手がける、当時、北陸大経済経営学部の藤岡慎二客員教授を迎えた研修会にも参加させていただき、県立高校の将来構想における高校魅力化に向けた経過を見守ってきた立場を踏まえまして、再質問をさせていただきます。

ちょっと順番変えて、(6)から入りたいと思いますが、まずは、現状把握として、市内3高校における高校魅力化に向けた取組の成果の指標の一つとなる令和5年度県公立高校入学者一般選抜の志願状況が、2月21日に県教育庁高等学校教育課より発表されました。それによりますと、糸魚川高校普通科は、募集学級3クラス120名に対し、志願者112名で0.93倍。糸魚川白嶺高校総合学科は、募集学級3クラス120名に対し、志願者113名で0.94倍。海洋高校水産科は、募集学級クラス78名、これ、特色化選抜で2名合格しておりますので、78名に対し、志願者数65名で0.83倍でした。

この数字を見まして、当市としてこの志願状況の結果、また、中身のほうをどう評価しているのか、もしご見解があれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今ほど令和5年度の県内の公立高校の一般選抜志願状況、加藤議員のほうから、2月21日現在ということでお示しのあったとおりでございます。昨年の最終の人数と比べてみますと、糸魚川高校、糸魚川白嶺高校ともに、昨年より、昨年の最終の志願者数より増えているというふうな状況であります。

また、海洋高校につきましては、昨年は、募集定員をオーバーするという状況でございましたが、現在、定員には、まだ達していないというふうな状況で受け止めております。今後、また市内の中学校の生徒がどういった進学先に進むかというのが、また出てくるかと思っておりますので、そういった中で、市内4中学校の生徒の進む道はどのような形で現れてきているのかといった推移につきましては、引き続き見守ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

先ほど約3割が、市外への高校進学ということでしたが、今年度の志願状況の中で、市外に志願をした方と、逆に市外から当市内の3高校に志願をした人の割合みたいな数字というのは、ある程度把握とかはされてますでしょうか。そういったデータがもしあるようでしたら、なければないで

いいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

先ほど加藤議員おっしゃった2月21日時点の倍率は、今週中、まだ志願変更がありますので、私どもとしては、その最終結果を待って、先ほど課長が答弁いたしました市内の中学生の動向だとか県外・県内からの動向を含めて少し分析が必要だなというのは思っております。まだ数字にはなっておりませんので、分析をして、また議会にも報告をさせていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

そうですね。今後、魅力化の指標を図るために、希望があったり自分の確固たる進路があって市外に出ていかれる方は、やっぱり市外に行くチャンスがあって当然だと思いますし、逆に言うと、市内3校の魅力が、そういった直江津を特に中心にして魅力が伝わって、来たいということがあれば市外から入ってくる方も、相殺になるので、表面的な倍率だけではなく、そういった中身も、できれば5年ほど遡って時系列に把握してもらうことによって、より中身の精査ができるんじゃないかなと思いますので、今後また、そういったところをしっかりと精査して、また指標の一つとしていただきたいと思います。

また、今おっしゃっていただいたとおり、今度、1倍以上から1倍未満の志願変更ができたりとか、2次募集もありますので、現状の数字を見ると、ほぼ定員近くまで、また、おおむね充足するのではないかと期待しております。それもやっぱり、先ほどありました高校魅力化の成果が、ある一定は、地元にも、また市外にも伝わった結果だと思っております。そういったことでこの現状を踏まえて、進めていただきたいと思います。

続きまして、その中で、今、志願状況の分析ということで数字に表れるところを見たんですが、もう一点大事になってくるのが、当市の市内3高校が置かれた今の現状認識です。令和9年度までの学校・学科の在り方についての中長期ビジョンであります県立高校の将来構想を踏まえて、昨年7月22日には、令和5年から令和7年度の毎年3か年ずつ出るんですが、県立高校等の再編整備計画が公表されております。また本年7月は、また今回の状況を勘案して、令和6年度から令和8年度分が公表されます。

ただ、今現在も、平成28年3月の策定から、県立高校の将来構想の改定がまだ行われていない状況で、これを見ますと、糸魚川市、妙高市、上越市が一つのエリアで、「⑤エリア」ということになってるんですが、令和9年度までに普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、総合選択の高校を設置する方針となっていますので、現状まだ改定がなっていないので、そういった県の考え方は、まだ持ってるんだろうなということを考えております。

そういった中でも、地域の声というのも大事ですので、当市として、こういった形がいいのか、また3校それぞれ頑張ってもらってる形がいいのか、もし今現在でお考えがあれば、教えていただ

きたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

県立高校の将来構想には、今ほど議員おっしゃいますとおり、令和9年度までということで計画されてる中で、毎年毎年、3年ずつのローリングということで進んでいるような実態がございます。そういった中で、まずはそれぞれの市内3高校が、それぞれの魅力、また特色化を進めることによりまして、それぞれ3高校が市内で、まず魅力ある、選ばれるような学校にするために何をすべきかということをも市としても考えるべきことを考えて、高校と一緒に進んでいくことが大切だというふうに捉えています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

ありがとうございます。市としては、3校を堅持しながら魅力を高めていくということで理解いたしました。

また現在、令和3年度から3年間、地域との連携を深化させた人づくりの推進の事業指定校として、糸魚川高校が新潟県からの活動支援を受けて、本年度は最終年度となる令和5年度の実施によりまして、またその成果報告書が令和6年3月に提出されますし、また同じく令和3年から令和5年度の文部科学省のマイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）に採択された海洋高校の実施もでございます。そういった中で、今後また、令和6年度の県公立高校入学者一般選抜の志願状況を鑑み、県もまた新しい考え方をしてくれるんじゃないかなと期待をしているところでございます。

ただ、そうはいっても、次回はある程度の、こういった、県はどういう方向でいくかというところが、令和6年7月に示されるだろうという、私は覚悟というか、そういった場面になると思います。

そういった意味でも、この令和5年度の実施というのは、市内3高校の高校魅力化の総仕上げというか、しっかりとしてもう成果をどんと出して、またそれを見ていただいた地元の生徒、また上越エリア、市外の生徒からも選ばれる、そういった志願状況が示されれば、県の方向、そういった部分の方向性の考え方を変えていけるんじゃないかという部分も期待をしているところです。そうはいっても、ただ、地元からやっぱり出ていくところが、約3割が高止まりしたり、どうしてもコロナ禍もあっていろいろ大変なんですけど、ただ生徒数というのはやっぱり減り続けている現状があるので、どっかでやっぱり学級数を減らしていかなくちゃいけないという中で、やっぱりちょっと私も危機感の中で、まだ県のほうでは、もしかしたらそういったのも出てくる可能性もあるんじゃないかなと考えます。

そういった中で、やっぱり県の高校の県教育委員会の高等学校教育課との、ある程度の情報交換とか、もちろん当市でも実施されているので、そういった情報伝わってると思うんですが、直接こ

の3校の頑張りを直接伝えたりですとか、そういったパイプづくりをしながら、私たちの思いや頑張ってる姿を見てもらって、県のやっぱり考えとかをこうしながら、そういったやり取りが今からしておくことが大事ではないかなという考えでありますが、現在そういった動きをする予定があるとか、今もう既にそういったパイプがしっかりあるとか、その辺の今の状況を教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

糸魚川市教育委員会として、県の高等学校教育課のほうには、昨年度、何回か足を運ばせていただきました。直接担当の指導主事さん、課長さんを含めて、糸魚川市の事情をお話させていただきました。特に今年度は、糸魚川高校に自習スペースを確保するために、最初、校舎内で1スペースを確保するのに結構すったもんだがありまして、なかなか私どもの願いを受け入れてくれる部分のところがちょっとハードル高かったんですけども、何とかそれはクリアさせていただいて、その後、実績をまた持っていきまして、ちょっと人数が増えてきたんで、そこら辺りかなりまたスペースが欲しいっていうふうなことで働きかけをしまして、だったら校内にある先輩たちが造った「翠葵（みずき）」というセミナーハウスみたいなものがあつたので、そちらのほうに今度移転をして、広いスペースの中で高校生ニーズに応じた形でもって自習スペースをつくろうということで、県の高等学校教育課からも認可されまして、そんなふうなやり取りの中で糸魚川市3高等学校が、コーディネーターの配置によってどんなふうな取組をしてるかという部分のところも、今後どのような計画で進めていくのかということも話をさせていただきました。

今年度も、そろそろ1年間取り組んだ経過と結果が出てきますので、そこら辺りも踏まえて、県の高等学校教育課のほうにまた出向いて、今年度の実績、それからコーディネーターを迎えて第2年次目の令和5年度取組についての方向を、ぜひこんなふうな方向で積極的に進めていきたいんで、県の高等学校教育課からもぜひ応援をいただきたいというふうな形での働きかけについては、積極的に遠慮せずに積極的に私どもの取組については理解していただきながら、しかも応援をしていただくというふうな部分のところまで何とか根気強く運びながら、働きかけを進めていきたいというふうな方向であります。義務教育課に足を運ぶよりも、県の高等学校教育課のほうに足を運ぶ回数が非常に多い、そんなふうな記録を残しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

今のお言葉聞いて、安心いたしました。やはりそういったコミュニケーションというか、そういった部分はやはり今後反映されると思いますので、今後また新しいコーディネーター3名の方、本当に頑張ってらっしゃいますので、その辺を含めてしっかりと伝えていただきたいと思います。

続きまして2番、3番ということで今お話を聞きましたが、まず、今の公営塾に関しては、現在の、まず糸魚川高校にある自習室、またもう一個ということで、恐らく白嶺高校なのかなということも推察しますが、一応、海洋高校3校そろった段階で、また次の公営塾というふうな考えなのか、それとも、ある程度、自習室を運営して行って、そこも何か撤収してしまって、どこか中心に、どの高校生が集まってもいい公営塾をつくっていくとかも、もしそういったもうイメージ等があれば、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

スタートは、糸魚川高等学校の自習スペースということの充実をずっと1年間、蓄積しました。昨年の11月に3高等学校の校長先生と教育委員会こども課の事務局が、コーディネーターも交えて一緒にミーティングをする機会がありました。要するに、コーディネーターが3人そろったので、ぜひここでもう一回仕切り直しをしながら、今までの取組と今後の方向について、校長先生方と直接に話し合いをさせていただきました。その経過の中に、糸魚川高校の自習スペース「翠葵（みずき）」の関係について、具体的にコーディネーターからどんなふうに進めているのか、どんな成果が出たのかというふうな生の情報を両校2校、白嶺高校と海洋高校の校長先生方にも聞いていただきました。

その感触としては、できれば自分たちのところにも何かそんなふうなスペースがあると、何かありがたいなというふうな雰囲気は、十分そのミーティングの中で感じさせていただいたんです。それがどのような形で実現するか、どんなふうな時期にそれが実現できるのかという部分についてはちょっとまだ未知数の部分があるんですけども、糸魚川高校での取組を何とかその自校の中でも何か工夫してできるんじゃないかというふうな感触を、両校の2人の校長先生方が感触を感じたようでございますので、今度はコーディネーターが、やっぱりこの3人体制から拡充するというふうな部分になってきますというと、その辺の部分のフォローも何とか軌道に乗っていきけるんじゃないかなというふうな展望も持っています。

これは、あくまでも高等学校の校長先生方との懇談の中で実現していく話でもございますし、それがやっぱり県の高等学校教育課にもまたつながってくるというような部分がありまして、即座にはなかなかいかない部分があるんですけども、これも根気強く、何とか高等学校の実情に応じて、子供たちのニーズに応じた形で、どんなスペースが必要なのかということの確保に向けては、精いっぱい進めていきたいというふうに思っています。まず、自習スペースの充実、そこでの実績を鑑みながら、それがどんなふうな形でもって発展していくかという部分については、足元を固めながら、先の展望もまた協議する中で、見いだしていきたいというふうな展望であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

ぜひワンステップ、ワンステップやっば積み重ねていくことが本当大事ですし、またそういった中で、今現在、地域の声を聞く機会が前は3校一堂に会したのに、今コロナ禍もあって、ちょっとばらばらで情報が共有できてなかった部分がある。これで5月で5類になれば、またそういった活動を3校連携できる部分があると思いますので、またそういった中でも、私も最終的な、まだその先になるとは思いますが、例えば石川県能登町にあるような「まちなか鳳雛塾」みたいに、それこそ中学校1年から高校生が一堂に、例えば駅北エリアとかそういった中で、白嶺高校、海洋高校、糸魚川高校の学生とも一緒になってできるようなものができればいいなと思いますし、それに当たっては、多少お金を頂いても、しっかり勉強の意思がある人たちが集まるような形もいいなと個人的には思っていますので、公営塾も本当いろいろな形がありますので、ぜひ全国のそういった情報を集めていただいて、そのスペックを積み上げる中で、本当に糸魚川にまた、これは経済的に厳しい子を含めて、そういった公営塾の在り方を検討いただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

続きまして、3番の教育寮ということで、今どちらかという、海洋高校さんだと今、県外から来られてる部分で生活寮的なところが多いところで、今後コーディネーターを拡充して、そこにフォロー入って教育寮的な、先ほど言った部分のコミュニケーションを取ったり、そういった共同生活の中で育てていくというところを進めていかれると思うんですが、今の生活寮をしているところにコーディネーターさんが入って教育寮的にしていくのか、時々行って、コミュニケーション取りながら指導したり、そういったコーディネートをしていくのか、今現在、教育寮の次のステップの在り方というか、拡充した後になると思うんですが、その考えがあれば、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

現在、市内で寮を持っているところは、県外の生徒が多い海洋高校のみという形になっております。そういった中で、こちらを教育寮にするのかどうかという部分につきましては、学校、また新潟県に加えまして、今の寮を運営している団体がございますので、そういったところの調整が必要になってまいります。

場所につきましても、その寮でやるのがいいのか、もしくは高校の校長先生からは、寮ですと、いわゆる寮生しか使えない部分等があるものですから、ほかの場所、例えば学校がいいのか、地域の公民館等を活用したほうがいいのかといった、場所の具体的な話も出てきております。そういった中で、まだ具体的に教育寮、また寮を使った高校魅力化の内容につきましても、現在まだ決まっておきませんので、そちらにつきましては、関係者と調整を進めてまいりたいというふう考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

また、この教育寮になるとコーディネーターのまた資質というか能力だったりがあるので、またさらに審査が厳しくなって、もしかしたら目にかなう方が時間かかるかもしれませんが、教育寮に対しては、本当に多分接する時間が多かったり人間的な伝わる部分が多いので、そこは本当に慎重にというか、本当にすばらしい方を選んで、そういった教育寮についても本当に各地区で、もう全然在り方が違いますので、ぜひそういった可能性とか、そういったほかの、海洋高校であれば、寮生活でない人たちも接したり、場合によったら地元の生徒もそこに入って寮生活すると多分成長すると思うんですね。

僕も高田工業だったんで、高校1年から親元を離れて下宿生活をしてたので、今思うとそのときが一番成長したなという部分がありますので、そういったいろいろな可能性を含めて、ご検討いただければと思います。ありがとうございます。

続きまして、高校魅力化プロジェクトはお聞きしたんですが、あとやっぱり目指すべきちょっと中長期でいいので、高校魅力化ビジョン、また構想みたいなものがあると、より今の皆さんの進捗状況が分かると思いますし、募集のものを見ると、フェーズ1が今終わりました。フェーズ2で教育寮にしますというコーディネーターの募集要項があったんで、多分、市内ではある程度、フェーズ1、フェーズ2、フェーズ3があって、大きなビジョンが多分あると思うんですが、やっぱりそれが皆さん見えてこないの、ちょっとここで終わりなのかなみたいなのところがあるんで、そういった部分で高校魅力化ビジョンということで、これ仮称で、私が勝手につけてるんですが、そういったものをやっぱりしっかり市内の一貫教育のようなビジョンのような形で、高校魅力化ビジョンがあると、より皆さんも協力しやすかったり、これからまだまだ進歩して発展して、さらに市外から呼べるくらいになるんだなというのは見えてくるんですが、そういったのを多分、中では言葉を見るとあるんだろうなと思うんですが、その辺、外に出してほしいというか、という思いがあるんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

高校魅力化のコーディネーターの本格的な配置は、今年度からということで進み始めたところではございます。現在、なかなか市内の高校でどんな活動してるのかというところが、市民の方には見えないという中で、昨年度の途中、春ぐらいからだったんですが、市の広報の中で、高校の活動状況、魅力化の取組について市民の方に周知もしてきたところであります。

先般、直近の広報をご覧になって感じたかと思うんですけども、表紙を高校生が飾られたり、中のほうが高校生一色だったりというふうな特集も組まれたりということで、まずは市民の方に伝えるということで、活動の様子に取り組んでいるところであります。

しかしながら、計画性といいますか、目的であるとか目標であるとか、また、様々な事業を進める中では、PDCAといった部分もございますので、そういった部分も注意をしながら、皆様に成果といいますか結果が分かるような形で、どのようにするかということは少し決まってない部分も

ありますが、成果につきましては、しっかりと皆様のほうに伝えてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

これに当たっては、先ほど予算の部分をステップに充当していくということは、税金を使うということですので、市民の皆さんにも理解いただきたいですし、これをするのが回り回って市民の皆さんにも還元されるというところをやっぱり伝えていくことが大事ですので、ぜひそういったビジョンを含めて、広報活動・周知をしていただきたいですし、今後は、そういった意味で、何ですかね、コンソーシアムの立ち上げがやっぱり必要になると思います。まさにこれから様々な活動が、コロナ明けに活発になってくるときに、やはり産官学民の連携して、そういった地域ぐるみの、あと合意形成と、そういった共同活動、また一体的かつ安定的に行えて、しっかりと構成員と規約と、あと今言った予算等を有する組織の高校のコンソーシアムの構築が大事でありますし、当市におかれましても、アソシエイト校の認定、これ見ますと、コンソーシアムの構築が私にとっては条件に見えるんですが、アソシエイト校を受けるには、コンソーシアムの構築をしてくださいねというふうに私は読み取ったんですが、緩やかな形はあると思うんですが、ちょっとまだ目に見えてこれがそのコンソーシアムだよというのはちょっと分からないんで、もしそういうのがあれば教えていただきたいですし、もし今後、構築していくのであれば、どういったものを構築されていくのかちょっと教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

今、議員おっしゃった令和元年度からの地域との協働による高等学校教育改革推進事業につきましては、令和元年度から、元年度、2年度、3年度と3年間の指定でありました。議員おっしゃるとおり、コンソーシアムによるというところがあったんですけども、特にうちのほうはアソシエイトということであったため、あえてコンソーシアム、いわゆる協議体といいますかね、そういったものを設けなくて、先ほど議員がおっしゃった地域の声を聞く会だとか、教育懇談会だとか、そういったところをコンソーシアムに見立てるといいますかね、その身軽な感じでやりたいというように文部科学省のほうに要望もしながら進めてきたところであります。

ご提案のとおり、コンソーシアムというのは、全国的にもやはりそういった決定の場といいますかね、方向性を定める協議体というのは設立されておりますし、今、コーディネーター、あるいは今までの高校の魅力化事業の中で関わっていただいた方が、市内たくさんいらっしゃいます。そういった方の理解も得ながら、そういった方の集合体としてコンソーシアムというのは考えられるというふうに思っていますが、先ほどの高校魅力化の計画といいますかね、今後のそういった計画も含めて、少しコンソーシアムの設立については、もう少し検討が必要かなというふうに思っています。とりあえずは、今、高校の魅力化の3本柱と言われるコーディネーターの配置、公営塾、教育

寮というところのコーディネーターの配置を今やって、生徒が変容してきたというところで、それを踏まえて、今後ちょっと考えていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

現在コーディネーターの方も一生懸命頑張ってもらっていますし、これから公営塾、教育寮を運営するに当たって、ある程度組織的な、やっぱりそういうコンソーシアムが必要になってくると思いますので、その段階に応じていいんですが、していただきたいのと。

あとどうしても今の進め方だと属人的になって、頑張ってもらってるコーディネーター、例えば3年の契約であれば、続けていただければいいんですけど、もし3年で代わると、またそのノウハウとか人脈が失われてしまうので、そういった意味でコンソーシアムは、法的に少しそういったコーディネーター機能を保持するというか、支えていく組織にもなるんで、やっぱり今後そういうのも必要ですし。

あとやっぱり見ると、まだ個人での動きになるので、やっぱりいろいろ動いても多分ご苦労があったり、精神的負担が多いだらうなというのを見受けられるので、もしそういったコーディネートとかサポートする組織的な支援があれば、より機能的に動けます。例えば今回も出ていただけていますが、市内でこども課だけじゃなくて企画定住課とか、商工観光課のほうの人たちが入っていただいて、結構プロジェクトが探究するときに、意外とそういった人のネットワークが必要になってくるので、どうしても教育委員会内だけではなかなか広がらない部分があると思いますので、またその市内コンソーシアムという連携会議といいますとあれなんでしょうけど、そういった形で立ち上げて、そういった方々の支援をするのと。

後はやっぱり予算ですね、やっぱり何するにもお金をつけてあげないと動きができなかったり動くことはできないので。そういった予算をつけるときにもコーディネーターに個人的には渡せないもので、そういった組織があると支出が、予算をつけられたり支出ができるので、そんな仰々しいのはまず要らないと思うんですが、やはりそういう機能的な部分が必要だと思いますので、それをコンソーシアムと呼ぶのか違う名前と呼ぶのかは別ですが。

さらにまた、これから頑張ってくださいに当たっても、今のコーディネーターさんを支えるためにも、よりそのサービスというか、一緒に成長していく探究活動していくためにも、やはりそういった仕組みがやっぱり必要だろうと思いますので、その辺をちょっとぜひ検討いただきたいですし、ぜひこども課内で収めることなく、ぜひ連携をしていただきたいと思いますが、企画定住課と、大西課長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり高校の魅力化につきましては、私も県立高校の魅力化構想につきましては、その作成する

委員にも加わっておりました。それを私は、加わったときから、もうやはり少子化を対応した中で、糸魚川市の高校教育はどうあるべきかというところをやはり基本に考えてまいりました。やはりどう考えても3つの高校の必要性、それをどのようにこれから地域の中でこの高校の存続を考えていけばいいのか。それを考えたときに、やはり自分たちの町だけでは生徒がいなかったら、よそからもおいでいただいて勉強する施設として存続させることが大切ではなかろうか。それにはやはり魅力がなければ生徒が集まらないというところを考えさせていただいて、今ほど教育委員会のほうで申し上げた3本柱をしっかりとしていくことが大切だろうと思ってるわけでございまして、それを教育委員会だけではなくて、全庁挙げて、また全市挙げて、それに取り組んでいける体制をつくっていききたいと思ってるわけでございまして、前例のない事業でございまして、コーディネーター、そしてまた情報にはいろいろ全国では持っておられる一つのコンサルみたいなのも結構あるわけでございまして、いろんな情報を頂く中で進めていきたい。そして今、ご指摘のように、強いて言えば定住・移住にもつながっていく部分でございまして、そういったところを広く視野に置きながら、3本柱を目指しながら取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

ありがとうございました。市長からもそういった熱い思いとその経過を踏まえて、しっかりとご理解いただいている中で進めていただけるということで、私も心強く思っております。

また、そういった中で（4）番に移りたいと思います。

ここにも関わりましたが、先ほどと関連するんですが、これはもう高校魅力化ということで教育政策であります。実は、もうこれ移住・定住促進の人口減少対策でもありますし、文部科学省から2019年に地域との協働による高等学校教育改革推進事業ということで、高校と地域をつなぐコーディネート機能の充実に向けてという冊子、50ページにわたる冊子があるんですが、その中に、なぜ高校と地域の協働が必要なのかというところで、これ実は第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略において、地方への移住・定住の推進に向けた若者の修学・就業による地方への定着の推進に際し、高等学校の機能強化等を掲げられたということで、これまさしくもう人口減少対策の中核の一つとして高校も見据えて、そこと連携をしていくということですので、ぜひ今、高校魅力化は教育委員会主導ですけど、ぜひ企画定住課とかそういった部分も、もう市長おっしゃったように、もう全庁でもがつつりやってくというぐらいの勢いで、どちらか主で従というということではなくて、やっぱりそういったところを理解していただきたいと思っておりますし。

こちらの今の資料は、また嶋田課長にもお伝えしたんで、ぜひ皆さんで共有していただければ、この中に、全部読んでいただければお伝えしたいことは全部書いてありますので、ぜひそういった部分をしていただきたいですし。

あと市民の方にも、ぜひそういった部分でつながるということで、僕もいろいろ勉強させていただいてる中で、令和2年の8月7日の総合計画審議会の第1回に出された参考資料の糸魚川市の現状というのがあるんですが、その中に人口減少の影響というサイクル図があって、いつもこのサイ

クル図をどういう方向にスピニアウトするかというところをいつも考えながら、いろいろな施策を見てるんですが。現在、本当にここの部分で産婦人科の維持が困難というところが、まず本当に赤点灯になりますんで、これは間違いなくこれはずっと回っていくと、今、複式学級もまた、西海小学校でも始まるように、様々に今影響出てきたりしてるので、そこを挽回するのは、やっぱり1つは高校魅力化で、一つこの円をいい方向に変えられるだろうという思いがありますので。でもそれをするのが、社会インフラとか商業・経済とか企業に回って、それが医療・福祉に回って、そういったことが、また高齢者のそういった部分に支援にもつながるというところで、やっぱりその地域循環の中の一つの施策であって、ここにお金をかけることは、子育て支援も同じなんですけど、全体に波及するよというのをぜひ伝えていただきたいので、そういった意味でもしっかりと全庁で、特にまた企画定住課含めて、率先して進めていただきたいと思います。

あと現状で、この中に高校の教育環境ということで、そうはいつでもやはり、今1,000人程度だと思ってるんですが、2030年には625人ということで、これはもう600人ぐらいになるということで、そうするとやっぱり県外から海洋高校だけじゃなくて、白嶺高校、糸魚川高校に対しても、県に要望して、県外受入れ枠をつくってもらったり、ひいては地域探究科みたいにして、本当に地域みらい留学で、1年生から3年生とか、あと地域みらい365というのがありまして、それは高校2年生だけが来るんですが、そういった仕組みも活用しながら、地元では補えない部分は、市外からもしっかりと呼んで、地域循環をつくっていくんだということをお考えいただきたいんですが、今の点踏まえて、そういった考えがあるかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、加藤議員の、いろいろおっしゃっていただきました。地域と協働、つながるといったところの部分と、人口減少対策、人口減少社会のサイクルの部分もご紹介をいただきました。

高校の魅力化というところの観点になりますが、逆に言うと、私は地方創生だなと考えております。いろんな仕組みをつくって、制度をつくって人を呼び込むというところもいいんですが、やはりこういった高等教育課、高校、高校の魅力化で人を呼びつける。やっぱり高校のやっぱり熱い熱意のある方が集まってくる。そういった中で、教育次長のほうからもコンソーシアムという話もありましたけども、教育懇談会ですとか、あとキャリアフェスティバル、これはもう議会の皆さんからも一緒にやっていただいていることであります。

そういった意味で、地域と協働でしっかりと皆さんがつながって育てていく。それで、いい循環へ持っていく。それがやっぱり地方創生の原点であるというふうに捉えておりますので、予算の面も含めて総合計画の重点事項の教育の分野というところもございまして、しっかりと進めていかなきゃならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

加藤議員。

○9番（加藤康太郎君）

そういった中で、ちょっと紹介だけになりますが、徳島県神山町では、神山まるごと高専ということで、資金を100億円集めて無償化しながらも全国から集めるとか、新潟県内でも三条市立大学ということで、私も3月23日に見に行くんですが、そういった地元企業120社ぐらいが授業の提供をして地元で就職してもらえるような環境をつくっていくということで、今年も倍率が4倍を超えるぐらい集まっていますし、また採算面でも指定管理料とか出してやりますが、定員になればとんとんに回るとか、後は北海道の奥尻高校の町立に移管した高校もありますし、ぜひそういった課題を先進的に捉えていただいて、糸魚川に魅力ある高校が残ることによって、今後、糸魚川が発展することを祈念いたしまして、一般質問を終わらせていただきます。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、加藤議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。再開を3時半といたします。

〈午後3時20分 休憩〉

〈午後3時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。〔14番 宮島 宏君登壇〕

○14番（宮島 宏君）

清新クラブの宮島 宏です。

今回の私の一般質問では、福祉、教育、文化に関する2つの項目の質問をさせていただきます。

1つ目は、福祉と教育に係る子供たちに確かな学力を育成することについてです。2つ目は、文化と教育に係る今年、生誕140年を迎える相馬御風の記念事業と、御風が関わったヒスイ再発見の歴史の見直しや、これまであまり紹介されてこなかった御風の姿の紹介に関するものです。

これより、1回目の質問に入ります。

初めは、確かな学力の育成についてです。

文部科学省は、新学習指導要領の改訂の基本的なポイントの一つとして、知識の理解の質を高め、確かな学力を育成することを挙げています。確かな学力は、知識や技能だけではなく、学ぶ意欲や自ら課題を見いだす力であり、第3次糸魚川市総合計画の第2章第2節「質の高い学校教育の推進」の「施策の方向」の筆頭に、確かな学力の育成が明記されています。

以下、当市の子供たちの確かな学力の育成について伺います。

- (1) 厚生労働省の生活困窮者自立支援制度の中の支援事業の一つとして、子どもの学習・生活支援事業があります。この支援事業は、生活困窮世帯の子供に対する3本の柱、すなわち、